

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.52 2010年4月18日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

## 「蟹工船」にかける思い

—80年前命がけで闘いに立ち上がった人たち

渡辺 高志

2010年1月26日、東京は練馬区の東京芸術座（東芸）の稽古場、「蟹工船」の本読み初日、60名になるうとする人たちが集まっていた。初めての東芸の人たちとの共演。いささか緊張する。冒頭から自分への声と読みのテストが、演出から行われた。なんとなくクリアか？

今回の出演は40年前の「労演」で観た「蟹工船」への思いが強かった。京浜協同劇団が所属している全り演関東ブロックで合同公演としてできないかと話し合われてきたが、しかし合同ならず。東芸の50周年記念公演に協力出演という形で決まった。

立ち稽古が始まった。初演当時、村山知義演出の助手だった川池氏の演出ノートによって村山演出のミザンス（立ち位置）が再現されていく。あとはセリフの現実感だ。「何を言っているのか判らない」一言一言にダメがみんなに出される。「セリフが客に伝わらなければ客は身を引く」とのゲキが飛ぶ。

「蟹工船」の圧巻（見せ場）は、船と波との闘いをどう観せるか、稽古場で本物を使えなくても手を抜かない。そして60日間、11時から夜までの稽古が続く。

稽古中に左右田一平さんが指導に来てくれた。「普通に話せばいいんだよ」そう言った。日常やっていることが、板の上ではなかなかできない。日々意識することが大切と思う。

今回の公演には20人の協力出演者がいる。その中には30年ぶりという人もいる。前の「蟹工船」に出ていた人もいる。それだけ「蟹工船」にかける思いは強いのだ。

東芸も含め商業主義に走らないプロの劇団の人たちの生活はたいへんだ。1本の作品は昼間稽古に時間を費やし、夜遅くまで作業をして作り上げる。そして学校公演など旅で全国を回る。それでも食べていけない。アルバイトをする時間も少ないし、決まった給料が出ない。我々の劇団も昼間働いて夜遅くまで稽古をして、1日2回仕事をしているみたいで辛いときもあった。しかし芝居にかける情熱はプロもアマもいっしょだ。せめて高すぎる会場費に助成金が出るなど、国の文化行政を変えていかなければならないと思う。

80年前に書かれたこの作品は、過酷な労働と差別の中で、それぞれの思いを抱いて要求で団結し、人間らしく働いていけるように支配者に向かっていく労働者の姿を描いている。今はどうか？ 科学技術が発達し、法律も昔より前進しているけれど、精神はズタズタにされ「自己責任」という言葉でごまかされ孤立化している。しかし人間は人と人のつながりで強くなっていく。心のつながりが組織と集団をより強くしていくと確信している。内側の足並みの乱れは権力の思うつぼだ。右往左往しながらも団結していくしかないのだ。

今、差別と選別の世の中で80年前命がけで闘いに立ち上がった人たちを思い、愚直に生きていく覚悟を、今一度かみしめてみたい。

(劇団員)



「蟹工船」稽古中の筆者（撮影 城谷護）

## 井上ひさしさんを偲んで…

劇作家：篠原 久美子

2010年4月9日、井上ひさしさんが亡くなりました。「心よりご冥福をお祈り申し上げます」という言葉があるのは、こういうときに使うためかと、改めて「普通の言葉」の威力に驚く。何をどう言い、どう考えればいいのか分からなくなる局面で、「こうとしか言いようがない」という言葉がすでに生み出されていることのありがたさを知る。

私が劇作家になったのは、井上ひさしさんがいらしたからだと言っても過言ではない。物心着いたときからお話しを作ることは大好きだったので、物書きにはなっていたと思う。ただそれが小説家だったか童話作家だったかマンガ原作者だったかは分からない。それが二十代で井上戯曲に出会って、夢中になった。特に『雨』と『薮原検校』は、最初に私が圧倒された戯曲だった。「どんでん返し」というのはこういうふうにするものかと『雨』に驚愕し、『薮原検校』の放つ「弱者の毒」にぞくぞくした。井上戯曲は全て読みたいと、出版されるごとに追いかけた。私が劇団蒼生樹に最初に書いた『元禄・馬の物言い』は、井上戯曲の「夢中読み」がなければ書けない戯曲だったと思う。

井上さんに最初にお会いしたのは、北海道で行われた「劇作家大会」だった。その年、劇作家協会の新人戯曲賞の最終候補に私の作品が残り、井上さんが一票を投じて下さった。井上さんから「この人は日本よりも海外で活躍できるかも」と言っていた言葉が

素直に嬉しかったことをよく覚えている。

その井上さんと、戯曲セミナーの講師をしていた頃に、こんな会話を交わしたことがある。井上さんは講義で、『三人姉妹』の戯曲の構造分析をされた際、ご自分が、チェーホフのこの作品を超える戯曲は絶対に書けないと知りながら書いている、とおっしゃったことから、思わず伺ってみたのだ。その頃の私は自分の戯曲の下手さが嫌で、「もっとうまくなりたい」という一心で、ギリシャ劇から古典を読み直してみようとしていたのだが、その最初、『オイディプス王』でもうつまずいてしまった。2500年前、イブセンから学ぶことのできなかつた時代に、こんなに優れた構造の戯曲があるなら、演劇界は優れた演出家と俳優だけを輩出して、古典戯曲だけをやればいいのか、新作戯曲なんていらんではないか。そう打ちのめされた、ということをお話してみた。そのとき井上さんは、「あのね…。それでもいるんですよ。それでも、いるんです。」と、二度繰り返しておっしゃられた。そのときには、その言葉を「それでも書いていいんだよ」と、許されたような気がして涙がこぼれそうになったが、今はその言葉がもっと厳しい言葉として蘇っている。それは、「それでも、この今を、私達が生きているこの時代を、書く新作がいるんです」という声だったのだと気づいた。それは「書いてもいいんだよ」という許しの言葉ではなく、「書かなければいけないんだよ」という、覚悟の言葉だったのだと、今更ながら気づき返したのだ。

我が身と世の中を見渡せば、時代も寿命も、四の五の言って逃げている場合ではないところにきているなと、覚悟をもって考え直している。

### 誕生会に参加しませんか

文化の仲間会員の須田さんの中華料理店「西海亭」で「誕生会」をやっています。西海亭の常連劇団員と常連の文化の仲間会員を中心に始めたのですが、いまやほぼ毎月行うようになり、参加者も増えました。

文化の仲間の会員同士や劇団員との交流は、劇団の打ち上げやイベントなどの際にしかできませんし、まだまだお互いの交流が足りないと感じています。そこで月一度誕生会名目で交流会を始めました。名目といっても、もう家族に誕生会をやってもらえない中高年ですから、仲間にケーキとハッピーバースデイをやってもらうことはうれしいことです。

誰でもいつでも気軽に参加できる自由公開の誕生会です。あなたも参加してみませんか。JR川崎駅西口のハッピーロード商店街です。電話は044-511-6338で、次回開催日が聞けます。予告なく当日来てもOKです。歓迎します。(事務局・山木)

# 今までとは違う作品

## 人間の感情、欲望、赤裸々に

### 真船豊まふねゆたかの名作「鼬（いたち）」

京浜協同劇団は、創立 51 年目の最初の公演として、真船豊作「鼬」を内田勉さんの演出で 5 月から 6 月にかけて上演することになりました。制作の城谷護さんに聞きました。

「鼬」って、どんな作品なんですか？

「だるま屋」は、会津にある庄屋、本陣です。このだるま屋を巡って展開されるさまざまな人間たちの葛藤を描いた劇です。

時代は昭和の初期。だるま家は没落し、今や金貸しどもに家屋敷を取り立てられようとしています。その女あるじ「おかじ」は、夫が亡くなったあとも懸命に家を守ってきましたがもうどうにもなりません。息子の万三郎は出稼ぎのため南洋に渡って 3 年、まだ帰ってきません。そこへ、万三郎の叔母（おかじの義理の妹）「おとり」が現れます。彼女は警察沙汰を起こして 10 年前にだるま家を追い出された厄介者でした。さて……

と、そんな物語です。

今までの上演作品と傾向が変わっているように思えますが……

そのとおりです。ガラリと変わっているといえます。今までの上演作品はどちらかというと、メッセージがはっきりしていてストレートな芝居が多かったのですが、今回は生きるために避けては通れなかった人間の苦悩、欲望、葛藤を赤裸々に描いた喜劇なのです。私たちの祖父母のように貧乏だけど必死に生きようとした人々が登場します。

劇団にとっても俳優たちにとってもこの作品は大いに飛躍するチャンスではないでしょうか。

真船豊って作者はどんな人ですか？

1902 年、福島生まれの劇作家です。早稲田大学在学中に「寒鴨」を発表して早くも注目を浴び、劇作の道へ学業を捨て、農民運動に参加。昭和 9 年に発表した「鼬」は、人間観察の鋭さが激賞され、のちに近代古典の傑作と言われるようになりました。

\* \* \*



## 京浜協同劇団 第 80 回公演

# 鼬

いたち

東北の寒村を舞台に、人間の欲望をエネルギーに描く近代古典の衝撃作！

作 真船 豊 演出 内田 勉

装置 佐藤張二 音楽 安達元彦 舞台監督 藤井康雄

出演 河村はじめ・若菜とき子・小嶋宏子・稲垣美恵子・護柔一・渡辺高志・上村健太郎・藤井康雄・坂木フミ・瀬谷やほこ

前売 一般：2800 円 70 歳以上：2000 円 18 歳以下：1500 円（当日は各 500 円増）

予約制 必ず日時の予約をお願いします。変更の場合はご連絡願います。全席自由席です。

京浜協同劇団 〒212-0052 川崎市古市場 2-109 TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694

E-mail: keihinkyoudougekidan@nifty.com

開演	5/28 (金)	5/29 (土)	6/4 (金)	6/5 (土)	6/6 (日)
昼 2 時	●	●	●	●	●
夜 7 時	●	●	●	●	

会場 = スペース京浜（京浜協同劇団稽古場）

開場は開演の 30 分前です

◎文化の仲間通信◎

◆川崎・しんゆり芸術祭 (アルテリッカしんゆり) 2010

注目の演劇公演ほか チケット好評発売中  
☆オペラシアターこんにゃく座 オペラ「ネズミの涙」  
台本・演出 鄭義信／音楽 萩京子  
日程 4月30日(金) 19:00 開演  
会場 麻生市民館ホール  
料金 A席 3500円 B席 2500円 (全席指定)

☆劇団民藝公演 神戸北ホテル  
作 木幡欣治／演出 丹野郁弓／出演 奈良岡朋子・  
入江杏子・箕浦康子ほか  
日程 5月2日(日) 14:00 開演  
会場 麻生市民館ホール  
料金 5000円 (全席指定)

☆京楽座・中西和久ひとり芝居 しのだづま考  
日程 5月3日(月・祝) 14:00 開演  
会場 昭和音楽大学北校舎 第1スタジオ  
料金 3500円 (全席指定)

☆アルテリッカ寄席  
出演 内海桂子・しろたにまもるほか 落語・漫才・  
講談・マジックなど  
日程 5月3日(日・祝) 13:30 開演  
会場 新百合21ホール  
料金 2000円 (全席自由)

☆山猫合奏団公演 セロ弾きのゴーシュ  
出演 山猫合奏団・白石准(ピアノ)・大島純(チェロ)・  
楠定憲(語り)ほか  
日程 5月4日(火・祝) 11:00 開演  
会場 昭和音楽大学北校舎 第1スタジオ  
料金 2800円 (全席指定)

☆演劇集団円 金田明夫の絵本ひとり語り  
あらしのよるに  
作 きむらゆういち／構成演出 小森美己／絵 あべ  
弘士  
日程 5月5日(水・祝) 14:00 開演  
会場 昭和音楽大学北校舎 第1スタジオ  
料金 大人 3500円 4歳～中学生 1000円

☆子ども寄席  
出演 落語・マジック・独楽回し・腹話術ほか  
日程 5月5日(水・祝) 13:30 開演  
会場 しんゆり21ホール  
料金 大人 2000円 4歳～中学生 1000円  
問合せ いずれも、しんゆり芸術祭チケットセンター  
044-952-5082

◆山寺圭子「うた・唄・歌」vol.25

六月の叙情  
出演 山寺圭子(ソプラノ)／朝岡真木子(ピアノ)  
日程 6月4日(金) 19:00 開演  
会場 めぐろパーシモンホール(小ホール) 東急東横  
線都立大学駅下車8分  
演目 セレナータ(Tosti)、私のバラ(Schumann)、  
妖精の歌(Wolf)、一本の鉛筆(佐藤勝)、わたしが一  
番きれいだったとき(朝岡真木子)ほか  
料金 大人 3500円 小・中・高校生 2000円 (全席  
自由)  
問合せ 山寺 044-511-8995

◆川崎市民劇場第296回例会 イッツフォーリーズ公演  
天切り松 人情闇がたり

原作 浅田次郎／脚本 水谷龍二／演出 鶴山仁／出  
演 左とん平・井上一馬・茂木沙月ほか  
日程 6月6日～12日

会場 多摩・宮前・幸の各市民館とエポック中原  
とある留置所で、下町の古い職人風の身なりの老人・  
松蔵は六尺四方から先へは聞こえないという夜盗の声  
音「闇がたり」で、同じ留置所にいる若者にはるかな  
昔を語り始める。大正ロマン華やかかりしころ、貧しい  
人々には救いの手を差し伸べる、帝都に名をはせた義  
賊「目細の安吉一家」がいた……。

問合せ 川崎事務所 044-244-7481  
溝の口事務所 044-855-5916

◆太鼓衆団 輪田鼓(わだつみ) おくのほそみち 東  
京公演 阪神淡路大震災 15年祈念メモリアル

出演 太鼓衆団輪田鼓(和太鼓)／山田健(藤原歌劇  
団)／高野巧(篠笛)／柿崎竹美(民謡)／山中信人  
(三味線・TAKiO BAND)ほか  
日程 6月19日(土) 18:00 開演  
会場 パルテノン多摩大ホール(京王多摩センター徒歩5分)  
料金 一般 3500円 中高生 2000円 小・障害者  
1500円 (全席自由)

神戸発、響け日本の空に、つなごう未来へ——和太  
鼓と篠笛、ふるさと民謡・民舞による旅ものがたり  
名誉実行委員長 森村誠一  
問合せ こうべ輪太鼓センター 078-685-3535

◆歌舞劇団 田楽座 狛江公演 2010 万歳楽(まんざいらく)

日程 6月20日(日) 15:00 開演  
会場 狛江エコルマホール(小田急狛江駅徒歩1分)  
料金 指定席 4000円 自由席(大人 3500円 子ど  
も 1500円)

演目 太神楽・とりさし舞・獅子躍り・天平太鼓ほか  
忘れかけていた日本に、会いに行こう。和太鼓の力  
強い響と、郷愁を誘う篠笛や三味線の音。華やかな舞  
と笑いをふりまく山伏に時空を超えて、いつしか心は  
こどもに返る。

主催 田楽座狛江公演実行委員会  
問合せ 田楽座 0265-78-3423

◎会報編集部からおわび

前号会報51号で、「劇団50周年の集い」「赤い太鼓」  
「貧の意地」の写真撮影者は、長坂クニヒロさんでした。  
記載漏れがありましたこと、おわび申し上げます。

■文化の仲間ギャラリー■ 竹間テル子⑧

